



与論小だより

<キャッチフレーズ>

Smile No.1

令和3年9月16日



ブログはこちらから

校訓：至 誠 【 真心をもって人に尽くす 真心をもって事にあたる 】

東京オリンピック・パラリンピックに学ぶ

校長 岩元 輝美

42日間の夏休みも終わり、2学期が始まりました。

コロナ感染が広がりを見せ、緊急事態宣言が延長されたり、まん延防止等重点措置が出されたりした夏休みでしたが、東京五輪が賛否両論ある中で開催されました。いざ開催されると、連日報道される世界中のアスリートのパフォーマンスに関心も大いに高まりました。画面を通して、勝利に向かう瞬間の研ぎ澄まされた表情、全身からみなぎる気迫、その日に向けたストイックなまでの日々の積み重ね、支えてきた人々の思いなど、4年に1度のスポーツの祭典は、スポーツを通して、私たちに多くの感動と学びを与えてくれたと思います。一流アスリートたちの自己の限界に挑む姿に魅了され、心奪われた方も多かったのではないのでしょうか。



また、オリンピックの熱冷めぬまま東京パラリンピックも行われました。パラリンピックの基本理念を表す有名な言葉「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ。」は、「パラリンピックの父」と称された英国のルートヴィッヒ・グッドマン医師の言葉ですが、体が不自由な人だけでなく、新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされている現在の私たちにも通じる言葉だと改めて思います。たとえ失敗や困難なことがあっても前向きに考えることが大切であると痛感させられました。

なかなかコロナ終息が見通せない現状ですが、子供たちには、「自分なりの目標に挑み続ける」「困難にへこたれない」「失敗しても立ち直れる」力を付けていきたいと思っています。そのために、自分に自信をもてるようにすること、長所も短所も含めてありのままの自分は価値ある存在だと思えるようにすること、つまり「自己肯定感」を育むことが大切だと改めて考えます。自己肯定感を高めるには、良好な人間関係、特に大人の適切な言葉かけにその鍵があると言われます。また、「他の人の役に立っている」という自己有用感も、自己肯定感を育む上で欠かせない土台の感情だと言われています。

2学期が始まりました。コロナ禍で様々な制約がありますが、それでも工夫して子供が様々なことに挑戦する機会を意図的に作り、認める・褒める・励ます・感謝を伝える場面をたくさん増やしていきたいと思っています。学校はもちろんのこと、子供を取り巻く全ての大人が、積極的・肯定的に働きかけていく…そんな2学期になればと思います。皆様の御理解と御協力をよろしくお願いします。

